

明治時代より、日比谷エリアは日本の近代化を先導してきました。1883年、日本初の西洋風建物が日比谷に建築され、外国の貿易商や外交官たちに人気の会合場所となりました。昭和時代には、劇場やコンサートホールが日比谷に建てられ、日比谷はエンターテインメントの中心地として知られるようになりました。「日比谷公会堂」と呼ばれる初のコンサートホールは1929年に完成し、当時の東京では唯一のコンサートホールでした。

2018年3月29日、三井不動産はミッドタウン日比谷と呼ばれる、ショッピングとエンターテインメントの複合型商業施設を日比谷の中心部にオープンしました。明治時代の西洋化の象徴である鹿鳴館にインスパイアを受けています。総床面積は19万平米となり、地下4階地上35階建のビルにはオフィスや60を超える店やレストランが入っております。建物の外には日比谷ステップスクエアと呼ばれる広場があり、多くのイベントが催されます。その一つの日比谷フェスティバルは毎年ゴールデンウィークの時期に開催され、様々なパフォーマンスが披露されます。

日比谷やその周辺エリアには多くの劇場や映画館、アートギャラリーがあるため、新たな産業の創出を支援するだけでなく、芸術や文化の中心となることも、プロジェクトの目的でありました。東宝グループは、東京宝塚劇場やシアタークリエ等の劇場と力を合わせることで、世界に誇る映画と劇場の街を創り出しました。こうして、複合施設内にTOHOシネマズ日比谷が開館されました。13のスクリーンと約2800席の座席を誇る、東京最大級の映画館です。